

恩地 春洋先生

(公財)書道芸術院顧問、書道芸術院展名誉会員、漢字部・審査会員  
平成28年6月14日ご逝去されました。享年87歳。  
謹んで哀悼の意を表します。

2016年(平成28年)6月18日(土)

毎 日 新 聞

# 恩地春洋さん死去

## 87歳 毎日書道会最高顧問



(白雲)の指導を受け、2000年、毎日書道顕彰(芸術部門)に従い大阪へ拠点を移した。86年、書道芸術院理事長に就任。93年に始まった国際高校生選抜書展(書の甲子園)の創設に関わるなど、書人の育成に尽力し

## 国際交流に尽力

【評伝】

恩地春洋さんは、いつもやさしい笑みをたたえていた。恩地さんの周りには自然と人々が集まった。書に関する的確なアドバイスを聴こう、と。

書を通じた国際交流への情熱は生涯衰えなかった。燕京書道交流

出品料無料。学校教育の中に書展を位置づける。日本にいる留学生の協力を求める。恩地さんが呼びかけた精神が「書の甲子園」を支えている。

「気持ちのこもった作品こそ、見る人を感じさせる」。書作の根本にあった精神だろう。「捨」という言葉の深い意味を問い続け、繰り返した作品にした。18歳から始めた俳句をさらりと書いたシリーズも印象に残る。そんな恩地さんが珍しく、2015年の書展で強い主張を明らかにした。過激派組織「イスラム国」(IS)に殺害されたジャーナリスト、後藤健二さんの「目を閉じてじっと我慢怒ったら怒鳴ったら終わり」という言葉を添えた書「悲」怒りをこめて」。事件を契機に書の本質について

考えてみたと話していた。恩地さんの「遺言」となった。【桐山正寿】

第68回書道芸術院出品作品「悲」



2015年 第67回毎日書道展出品作品

「捨」